

編集部から
題提
え

四、解散宣言の非政治性・非組織性と無責任構造について

★浴田由紀子

一〇七八号「歴史的総括へ多くの人々の活発な論議を！」を受けて

(下)

旧日本赤軍が解散すること。自体は長年問われてきました。この国と世界情況の変化の中で、旧来の私たちの役割はすでに終了したこと。また私たち自身、武装闘争路線によつてではなく、民主主義の徹底によって、この国の変革を実現する主体として実践開始する中で、軍の名を排して实体にそつた名称になることが、人々とありのままに出合うた

問題は、「日本赤軍」の解散そのものによりも、その仕方に第一の問題は、「宣言」が党の組織的総括を抜きに、何故、今解散なのかを人々に責任をもつて明らかにするものではなかつたことです。一方的で結論だけの宣言は、乱暴かつ無責任で、政治性のない「次」を展望し得ないものでした。少なくとも日本赤軍は、三〇年近くアラブの地に実在し、この國と世界中の多くの闘う人々や革命組織との共同・共闘のも悪くも社会的・歴史的存在で、この国と世界の変革のために闘つてきました。良くも悪くも社会的・歴史的存在であったはずです。宣言では、その果してきた役割と未完の任務、共に生き闘つた人々への責任を明らかにされませんでした。

旧日本赤軍が解散すること。自体は長年問われてきました。この国と世界情況の変化の中で、旧来の私たちの役割はすでに終了したこと。また私たち自身、武装闘争路線によつてではなく、民主主義の徹底によって、この国の変革を実現する主体として実践開始する中で、軍の名を排して实体にそつた名称になることが、人々とありのままに出合うた

問題は、「日本赤軍」の解散そのものによりも、その仕方に第一の問題は、「宣言」が党の組織的総括を抜きに、何故、今解散なのかを人々に責任をもつて明らかにするものではなかつたことです。一方的で結論だけの宣言は、乱暴かつ無責任で、政治性のない「次」を展望し得ないものでした。少なくとも日本赤軍は、三〇年近くアラブの地に実在し、この國と世界中の多くの闘う人々や革命組織との共同・共闘のも悪くも社会的・歴史的存在で、この国と世界の変革のために闘つてきました。良くも悪くも社会的・歴史的存在であったはずです。宣言では、その果てきた役割と未完の任務、共に生き闘つた人々への責任を明らかにされませんでした。

旧日本赤軍が解散すること。自体は長年問われてきました。この国と世界情況の変化の中で、旧来の私たちの役割はすでに終了したこと。また私たち自身、武装闘争路線によつてではなく、民主主義の徹底によって、この国の変革を実現する主体として実践開始する中で、軍の名を排して实体にそつた名称になることが、人々とありのままに出合うた

問題は、「日本赤軍」の解散そのものによりも、その仕方に第一の問題は、「宣言」が党の組織的総括を抜きに、何故、今解散なのかを人々に責任をもつて明らかにするものではなかつたことです。一方的で結論だけの宣言は、乱暴かつ無責任で、政治性のない「次」を展望し得ないものでした。少なくとも日本赤軍は、三〇年近くアラブの地に実在し、この國と世界中の多くの闘う人々や革命組織との共同・共闘のも悪くも社会的・歴史的存在で、この国と世界の変革のために闘つてきました。良くも悪くも社会的・歴史的存在であったはずです。宣言では、その果てきた役割と未完の任務、共に生き闘つた人々への責任を明らかにされませんでした。

旧日本赤軍が解散すること。自体は長年問われてきました。この国と世界情況の変化の中で、旧来の私たちの役割はすでに終了したこと。また私たち自身、武装闘争路線によつてではなく、民主主義の徹底によって、この国の変革を実現する主体として実践開始する中で、軍の名を排して实体にそつた名称になることが、人々とありのままに出合うた

問題は、「日本赤軍」の解散そのものによりも、その仕方に第一の問題は、「宣言」が党の組織的総括を抜きに、何故、今解散なのかを人々に責任をもつて明らかにするものではなかつたことです。一方的で結論だけの宣言は、乱暴かつ無責任で、政治性のない「次」を展望し得ないものでした。少なくとも日本赤軍は、三〇年近くアラブの地に実在し、この國と世界中の多くの闘う人々や革命組織との共同・共闘のも悪くも社会的・歴史的存在で、この国と世界の変革のために闘つてきました。良くも悪くも社会的・歴史的存在であったはずです。宣言では、その果てきた役割と未完の任務、共に生き闘つた人々への責任を明らかにされませんでした。

旧日本赤軍が解散すること。自体は長年問われてきました。この国と世界情況の変化の中で、旧来の私たちの役割はすでに終了したこと。また私たち自身、武装闘争路線によつてではなく、民主主義の徹底によって、この国の変革を実現する主体として実践開始する中で、軍の名を排して实体にそつた名称になることが、人々とありのままに出合うた

問題は、「日本赤軍」の解散そのものによりも、その仕方に第一の問題は、「宣言」が党の組織的総括を抜きに、何故、今解散のか

らの「闘い」に取り組むことを示すためには、マスコミが取

方があつたつてます

人々への責任と総括を明確に

することを軽視する結果になつたとthoughts。『闘

いの社会性』と『闘いの歴史』

の私物化」と言われても仕方

のないあり方でした。良くも悪くも社会の変革を目指す者

の行為の結果は、全ての人々の現実へと反映します。あたら

めて私たちは、解散に至る闘いの総括・日本赤軍の闘いの歴史を、日本赤軍に関わった全同

志の責任において、人々とこの国

の変革の闘いに返すことが問

われていると思います。

第三に、そうした誤りを克服すべく、獄外から出された「日

本赤軍・最後の五・三〇声明・解

散宣言」も、形式的には組織名による声明でしたが、連絡を取

り合える同志たちの意見を聞

くこともないまま、内容的にも「個人解散宣言」を無批判に

フォローし、再び、解散の組織的総括・政治的責任について

は、その基調すらも明記されていません。

第一の問題は、「宣言」が組織的総括を抜きに、何故、今解散なのかを人々に責任をもつて明らかにするものではなかつたことです。一方的で結論だけの宣言は、乱暴かつ無責任で、政治性のない「次」を展望し得ないものでした。少なくとも日本赤軍は、三〇年近くアラブの地に実在し、この國と世界中の多くの闘う人々や革命組織との共同・共闘のも悪くも社会的・歴史的存在で、この国と世界の変革のために闘つてきました。良くも悪くも社会的・歴史的存在であったはずです。宣言では、その果てきた役割と未完の任務、共に生き闘つた人々への責任を明らかにされませんでした。

第一の問題は、「宣言」が組織的総括を抜きに、何故、今解散のか

らの「闘い」に取り組むことを示すためには、マスコミが取

方があつたつてます

人々への責任と総括を明確に

することを軽視する結果になつたとthoughts。『闘

いの社会性』と『闘いの歴史』

の私物化」と言われても仕方

のないあり方でした。良くも悪くも社会の変革を目指す者

の行為の結果は、全ての人々の現実へと反映します。あたら

めて私たちは、解散に至る闘いの総括・日本赤軍の闘いの歴史を、日本赤軍に関わった全同

志の責任において、人々とこの国

の変革の闘いに返すことが問

われていると思います。

第三に、そうした誤りを克服すべく、獄外から出された「日

本赤軍・最後の五・三〇声明・解

散宣言」も、形式的には組織名による声明でしたが、連絡を取

り合える同志たちの意見を聞

くこともないまま、内容的にも「個人解散宣言」を無批判に

フォローし、再び、解散の組織的総括・政治的責任について

は、その基調すらも明記されていません。

第一の問題は、「宣言」が組織的総括を抜きに、何故、今解散のか

らの「闘い」に取り組むことを示すためには、マスコミが取

方があつたつてます

人々への責任と総括を明確に

することを軽視する結果になつたとthoughts。『闘

いの社会性』と『闘いの歴史』

の私物化」と言われても仕方

のないあり方でした。良くも悪くも社会の変革を目指す者

の行為の結果は、全ての人々の現実へと反映します。あたら

めて私たちは、解散に至る闘いの総括・日本赤軍の闘いの歴史を、日本赤軍に関わった全同

志の責任において、人々とこの国

の変革の闘いに返すことが問

われていると思います。

第三に、そうした誤りを克服すべく、獄外から出された「日

本赤軍・最後の五・三〇声明・解

散宣言」も、形式的には組織名による声明でしたが、連絡を取

り合える同志たちの意見を聞

くこともないまま、内容的にも「個人解散宣言」を無批判に

フォローし、再び、解散の組織的総括・政治的責任について

は、その基調すらも明記されていません。

第一の問題は、「宣言」が組織的総括を抜きに、何故、今解散のか

らの「闘い」に取り組むことを示すためには、マスコミが取

方があつたつてます

人々への責任と総括を明確に

することを軽視する結果になつたとthoughts。『闘

いの社会性』と『闘いの歴史』

の私物化」と言われても仕方

のないあり方でした。良くも悪くも社会の変革を目指す者

の行為の結果は、全ての人々の現実へと反映します。あたら

めて私たちは、解散に至る闘いの総括・日本赤軍の闘いの歴史を、日本赤軍に関わった全同

志の責任において、人々とこの国

の変革の闘いに返すことが問

われていると思います。

第三に、そうした誤りを克服すべく、獄外から出された「日

本赤軍・最後の五・三〇声明・解

散宣言」も、形式的には組織名による声明でしたが、連絡を取

り合える同志たちの意見を聞

くこともないまま、内容的にも「個人解散宣言」を無批判に

フォローし、再び、解散の組織的総括・政治的責任について

は、その基調すらも明記されていません。

第一の問題は、「宣言」が組織的総括を抜きに、何故、今解散のか

らの「闘い」に取り組むことを示すためには、マスコミが取

方があつたつてます

人々への責任と総括を明確に

することを軽視する結果になつたとthoughts。『闘

いの社会性』と『闘いの歴史』

の私物化」と言われても仕方

のないあり方でした。良くも悪くも社会の変革を目指す者

の行為の結果は、全ての人々の現実へと反映します。あたら

めて私たちは、解散に至る闘いの総括・日本赤軍の闘いの歴史を、日本赤軍に関わった全同

志の責任において、人々とこの国

の変革の闘いに返すことが問

われていると思います。

第三に、そうした誤りを克服すべく、獄外から出された「日

本赤軍・最後の五・三〇声明・解

散宣言」も、形式的には組織名による声明でしたが、連絡を取

り合える同志たちの意見を聞

くこともないまま、内容的にも「個人解散宣言」を無批判に

フォローし、再び、解散の組織的総括・政治的責任について

は、その基調すらも明記されていません。

第一の問題は、「宣言」が組織的総括を抜きに、何故、今解散のか

らの「闘い」に取り組むことを示すためには、マスコミが取

方があつたつてます

人々への責任と総括を明確に

することを軽視する結果になつたとthoughts。『闘

いの社会性』と『闘いの歴史』

の私物化」と言われても仕方

のないあり方でした。良くも悪くも社会の変革を目指す者

の行為の結果は、全ての人々の現実へと反映します。あたら

めて私たちは、解散に至る闘いの総括・日本赤軍の闘いの歴史を、日本赤軍に関わった全同

志の責任において、人々とこの国

の変革の闘いに返すことが問

われていると思います。